



学級新聞 3年の部で最優秀賞を受賞した豊間根小の皆さん



学校新聞の部で最優秀賞を受賞した大沢小児童会の皆さん

県小中学校新聞コンクール 2校3紙が最優秀賞に輝く

県新聞教育研究協議会（川村久子会長）が主催する県小・中学校新聞コンクールの小学校・学校新聞の部で大沢小学校の「海よ光れ」と同学級新聞中学年の部で豊間根小3年の「挑戦」、個人新聞5年生の部で大川莉穂さん（大沢小）の「希望」が最優秀賞を受賞しました。同コンクールの小学校部門には、県内から818点の応募があり、大沢小の「海よ光れ」は4年連続での最優秀賞となります。

「海よ光れ」は大沢小児童会執行部9人が制作する月刊の学校新聞。出品した10月号は、21年目を迎える全校表現劇「海よ光れ」についての全校児童アンケートなど6頁で構成されています。「挑戦」は豊間根小の3年生6人が制作した学級新聞で、学校行事や生活習慣などに関するアンケート調査など全4頁。大川さんの個人新聞「希望」では、「海よ

光れ」での自分の配役や好きな本などについての記事が書かれ、どの新聞も学校生活の楽しい様子が感じられる作品となっています。

このほか、同コンクールで入選した皆さんは次のとおりです。

- ◆入選者 ▶ 小学校個人新聞・3年の部 入選…佐々木千聖（豊間根小）、佐藤珠律愛（同）
▶ 同4年の部 入選…武藤愛（大沢小）、阿部翔子（山田南小）▶ 同5年の部 優良賞…前山悠樹（大沢小） 入選…鈴木悠真（同）、大川朋宏（同）、佐々木修朔（同）▶ 同6年の部 優秀賞…伊藤納愛（同） 優良賞…福士幸太（同） 入選…鈴木彩加（同） 《敬称略》



個人新聞5年の部で最優秀賞に選ばれた大川莉穂さん

女性セミナーと豊中から寄付 育英会と町に温かい善意届く

12月12日、「やまだまち女性セミナー」（鈴木協子運営委員長）が、山田町育英会にチャリティーバザーの益金2万円を寄付しました。贈呈式は教育長室で行われ、鈴木委員長ら4人が出席。鈴木委員長が「育英資金としてお役にしてください」とあいさつし、育英会副会長の岩船敏行教育長に寄付金を手渡しました。岩船教育長は「勉強したい子供たちに応えるため、大切にに使わせていただきます」とお礼の言葉を述べました。

また、24日には豊間根中学生徒会の執行部7人が役場を訪れ、リサイクル資源回収活動の益金で購入したリクライニング式の車いす1台を町に寄贈しました。贈呈式では生徒会長の勝山和弥君（3年）が「町の福祉のために役立ててください」とあいさつ。沼崎喜一町長に車いすを引き渡しました。これに対し沼崎町長は「皆さんの福祉の心は、町の人たちにも届くと思います」とお礼を述べました。この車いすは山田町社会福祉協議会を通じて、体の不自由な方々に貸し出されます。



女性セミナーによる贈呈式の様子（上写真）／豊間根中学生徒会から車いす1台が贈られました



今月の題字

山崎庄真君
(船越小3年)

町のわだい

ふるさと体験塾で竹とんぼ作り 手作りおもちゃの楽しさ味わう

12月13日、町教育委員会主催の「ふるさと体験塾」が町中央公民館を会場に開かれ、町内の小学生23人が参加しました。この日子供たちは「スーパー竹とんぼ作り」に挑戦。国際竹とんぼ協会岩手山田本部の宮昭三郎さん（豊間根・75）と佐々木良平さん（豊間根・70）の指導を受けながら竹を小刀で削り、アルコールランプで熱して羽にねじれを付ける作業を行いました。子供たちは完成した竹とんぼを何度も飛ばしては、手作りおもちゃの楽しさを味わっていました。



町立保育園の民営化説明会 22年度に1園移行を目指す

「町立保育園の民営化に関する説明会」が船越保育園と織笠保育園で開かれました。1回目の開催となった12月16日、会場の船越保育園には保護者や地域住民27人が出席。沼崎喜一町長があいさつを兼ねて経過を報告し、担当職員から町の状況が説明された後、質疑応答が行われました。出席者からは「将来的に子供の数が減って事業者が撤退し園が無くならないか」「民営化してサービスが低下するような事業者になっては心配だ」など多くの意見が出されていました。町では平成22年4月の民営化移行を目指し、検討を重ねて本年度中に両園のうち民営化する1園を決めたいとしています。

第12回郷土芸能祭に450人 元気よく舞う姿に盛んな拍手

12月7日、山田町郷土芸能連合会（堀合俊郎会長）が主催する第12回山田町郷土芸能祭が町中央公民館で開かれ、450人の町民が伝統の舞を堪能しました。今回は特別招待の城内大神楽（大槌町）と岩泉高校中野七頭舞（岩泉町）を含め町内の郷土芸能団体や伝承活動を行っている児童生徒など10団体が出演。わかば幼稚園の園児による大黒舞では、そろいの衣装に身を包んだかわいらしい「ミニ大黒様」が登場すると、会場から盛んな拍手。園児らが打ち出の小槌と扇子を元気いっぱい振りながら舞う姿に、観衆は目を細めながら見入っていました。

